

工学部必勝歌

大正 12 年採治卒業・大石 正寿 作詞

冠頭言(巻頭言)

仰げば星斗欄干として 永遠の真理を囁き
頭をめぐらせば 蘇山炎々として 若人の情熱を語る
自然の恵豊かなる肥後の一角 立山の麓 白川の畔
天地の精気 漲りたてるもの 之我が工友健児なり
いざや謳わんかな 我等朴訥の工友必勝歌を
血をすすり 涙して eines zwei drei サー

血をすすり 涙して 勝ち得し御旗 濁世の最中
燦たる光 見よや 紅の旗頭 工友健児の意気の精
立てば治めよ御旗の下に 群雄乱れ剣折るるとも
如何で渡すべき此の旗を 決死の力を尽すまで

血をすすり 涙して 勝ち得し御旗 幾春秋の
暮れにしあれど 如何で渡すべき仇人に
さらば誓わん我が友よ 命は軽し工友の誓
正義は固し工友の勲 やがて大呼せん勝鬃を
有明湾頭にひびくまで

(もともとは採治必勝歌であったが、後に他学科でも歌われるようになった)